

カーボンフットプリント (CFP) 算定シート使い方マニュアル (別冊) CFP事例集

大阪府 環境農林水産部
脱炭素・エネルギー政策課

2025年 (令和7年) 3月



算定

目的



- 「事業を通じて社会に貢献する」をCSR活動の根幹として、時代の要請や期待に応え、新たな価値の創造に挑戦し、社会と共に発展する
- 得意先からの取扱商品のGHG排出量の開示要求にも対応できるよう、モデル事業にてセオリー通りの算定手法を確認する

対象製品・
算定結果



	(1) 原材料調達段階	(2) 生産段階	(3) 流通・販売段階	(4) 使用段階	(5) 廃棄・リサイクル段階	合計
チョコレート A	76% 0.29	18% 0.07	5% 0.02	0% 0.00	0% 0.00	0.38 kg-CO ₂ eq
チョコレート スナック B	82% 0.39	13% 0.06	3% 0.01	0% 0.00	2% 0.01	0.47 kg-CO ₂ eq
加工食品 C	53% 0.36	12% 0.08	4% 0.03	29% 0.20	3% 0.02	0.69 kg-CO ₂ eq
アイスクリーム D	49% 0.18	8% 0.03	42% 0.16	1% 0.00	0% 0.00	0.37 kg-CO ₂ eq

算定により
わかったこと



- CFP算定そのものの標準的な算定手法
- 工程別の「ホットスポット」の明確化; どこにフォーカスすべきかのポイント
- 第三者認証機関の数値保証による数値の信ぴょう性
- 管理範疇外 (フローが不明な部分) のシナリオ策定の手順

表示

- 「みんなで減CO2 (ゲンコツ) プロジェクト」の一環で、大阪府内スーパーでアスエネCFP算定ラベルを表示

(<https://www.greenmarketing-lab.com/genco2/>)

ポッキーチョコレート



商品の減CO2なポイント



アスエネCFP算定ラベル

2023年度に大阪府と一緒にポッキー1箱あたりのCO2排出量(CFP)を実験的に算定した結果は0.47kg-CO2eでした。ポッキーを生産している北本工場の使用電力は100%再生可能エネルギーです。

くわしくはこちら [☞](#)

サ Raya株式会社

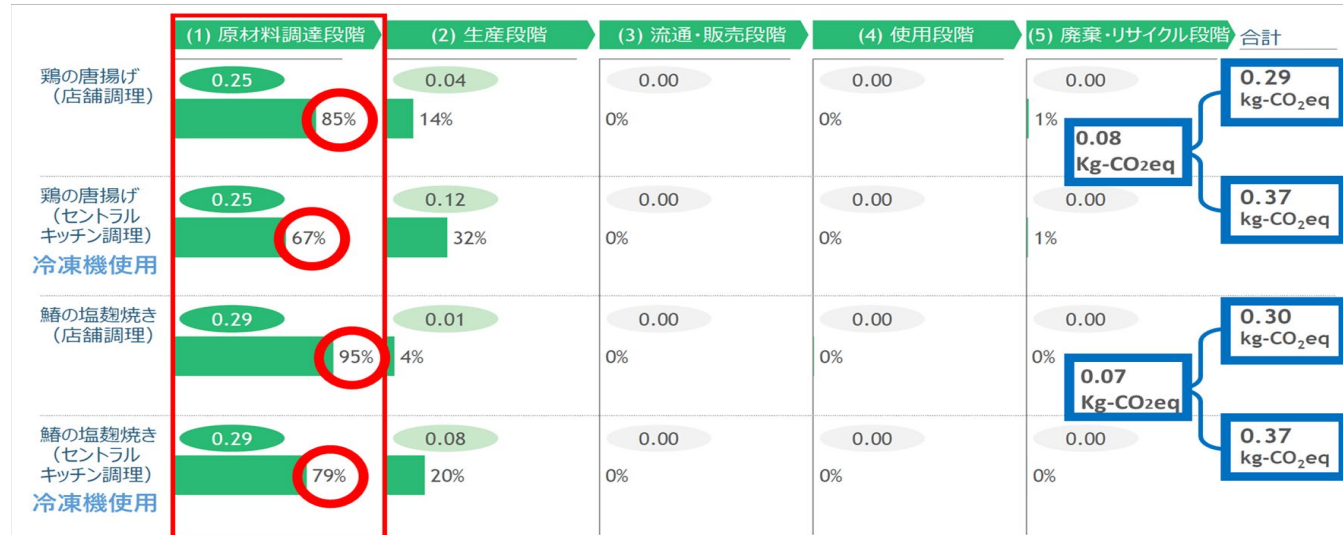
算定

目的



- 持続可能な食の文化や新たな調理プロセスの提案を通じ、日本の安全・安心で美味しい食品を日本中・世界中に広める
- 自社の急速凍結技術がCO₂排出量削減につながるか否かをCFPにより定量的に把握する

対象製品・算定結果



算定によりわかったこと



- 急速凍結機を活用した運用でも、CFPの差は大きくはならない
- 急速冷凍機による以下のメリットを踏まえると、差は許容できる範囲内
 - フードロス削減による排出量削減
 - 人手不足・人材不足などの対応として毎日調理ではなく、まとめて事前調理によるエネルギーコストと排出量削減 (提供当日は再加熱提供で対応可能)

表示

- 大阪府カーボンフットプリントセミナーにてCFPを公表
(<https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84355/seminarshiryou.pdf>)

P44に掲載



削減を考えるための方向性 (大阪府事業からの提案; 一部)

削減



- より排出量の少ない原材料の調達
 - 畜産プロセスの飼料をより環境負荷の小さいものに変更
 - 漁船の燃料の脱炭素化、低炭素化
- 生産工程の再エネ導入等

三起商行株式会社

算定

目的



- 良いモノづくりをしていることで環境負荷を減らせる、というストーリーを実践する
- 企業として上記ストーリーの重要性を念頭に、CO₂排出に係るホットスポットを特定する

対象製品・算定結果



	(1) 原材料調達段階	(2) 生産段階	(3) 流通・販売段階	(4) 使用段階	(5) 廃棄・リサイクル段階	合計
UVカットミル	0.33 60%	0.18 33%	0.01 1%	0.00 0%	0.03 6%	0.56 kg-CO ₂ eq
トレーナー	6.79 56%	3.39 28%	0.06 0%	1.85 15%	0.11 1%	12.19 kg-CO ₂ eq

算定によりわかったこと



- 良いものを作り、長くつかっていただきたいと考え提供しているトレーナーは、3世代使い続けた場合、1世代限りで廃棄した場合と比較してCO₂排出量は56%削減
 - 良いものを、長く大切に使うことが、環境の負荷低減につながる事が可視化された
- 原材料調達段階・生産段階での排出量が多いことがわかった

表示

- 展示会でデカボスコアとして表示



削減を考えるための方向性 (大阪府事業からの提案; 一部)

削減



- オーガニックコットンや天然素材由来の生地に変更
- 段ボールの形状の工夫による使用量削減
- 再エネ導入 等

ミズノ株式会社

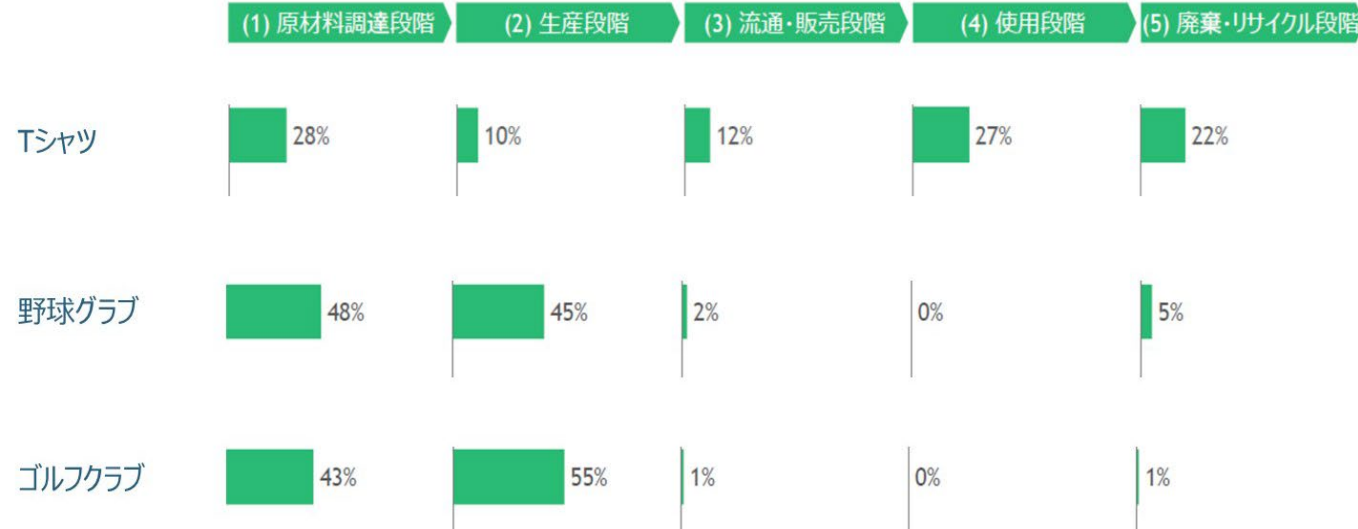
算定

目的



- 環境だけではなく社会・経済も含め、調和の取れた事業発展を目指す
- 長期環境目標およびKPI達成に向けて既に始動しているCFPの取り組みの加速化を目指し、正確性と業務負荷のバランスの取れた算定の「型」を確立する

対象製品・算定結果



算定により わかったこと



- 一次データを入手して算出することの重要性
- 原材料調達、流通や販売などの輸送時の排出に関する考え方
- 一次データの取得が難しい場合のシナリオの考え方

表示

- 大阪府カーボンフットプリントセミナーにてCFPを公表
(<https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84355/seminarshiryou.pdf>)

P69に 掲載



削減を考えるための方向性 (大阪府事業からの提案; 一部)

削減



- 省エネルギーや再生可能エネルギーの活用
- 製品製造工程の革新
- 廃棄物削減
- リサイクルの推進などの活動の加速 等



担当: 大阪府 環境農林水産部 脱炭素・エネルギー政策課
事務局: ポストン コンサルティング グループ合同会社
発行: 2025年(令和7年) 3月